

# AI特許文書作成支援サービス比較

「TOKKYO.AI」「AI Samurai」「アッピアエンジン」「ユアサポAI」



最新の生成AI技術を活用



特許文書作成の効率化



特許調査・分析の高度化



知財業務のDX化を推進

専門家向け分析レポート  
2025年4月

# 特許文書作成支援AIの市場概況

近年、特許文書作成業務におけるAI活用が急速に進展しています。特に大規模言語モデル（LLM）やChatGPTの登場により、2023年以降、市場の成長が加速しています。

## 市場規模と成長

- 日本のAIシステム市場は2023年に6,858億円（前年比34.5%増）
- 2028年には2兆5,433億円まで拡大予測
- 生成AI市場は年平均53.3%の成長率で拡大中

## 発展の背景

- 特許出願件数の継続的な増加
- 知財人材の不足と業務効率化ニーズ
- 生成AI技術の急速な発展
- 知財業務のDX化の加速

## 主要プレイヤーと市場ポジション

サービス名	開発企業	主なポジショニング
TOKKYO.AI	リーガルテックグループ Tokkyo.Ai株式会社	プライベート特許検索と生成AIの統合サービス
AI Samurai	株式会社AI Samurai	大学発の技術をベースとした特許申請支援システム
アッピエンジン	Smart-IP株式会社	特許明細書作成に特化したクラウドサービス
ユアサポAI	株式会社ユアサポ	Microsoft Word統合型の特許文書作成支援ツール

## 各サービスの主要機能比較

各サービスは生成AIを活用した特許文書作成支援を主軸としつつも、それぞれ独自の機能や特徴を持っています。

機能/特徴	TOKKYO.AI	AI Samurai	アップピアエンジン	ユアサポAI
生成AI/ChatGPT活用	✓ ChatGPT-4o実装	✓ GPT連携	✓ ChatGPT連携	✓ 独自生成AI
特許検索機能	✓ 高度	✓ 高度	－ 基本	✗ なし
特許文書作成支援	✓ あり	✓ あり	✓ 特化	✓ 特化
審査シミュレーション	－ 基本	✓ 高度	✗ なし	✗ なし
対話型インターフェース	✓ AIチャット	✓ AI Samurai ZERO	－ 基本	－ 基本
既存システムとの連携	－ 限定的	－ 限定的	－ クラウド連携	✓ Word統合
案件/文書管理機能	－ 基本	－ 基本	✓ 高度	－ 基本
セキュリティ対策	✓ 高度	－ 標準	✓ ISO27001取得	✓ ローカル保存

### 注目ポイント

- ・ 各サービスとも生成AIを活用しているが、実装方法に違いがある
- ・ TOKKYO.AIとAI Samuraiは特許検索と文書作成の両面に強み
- ・ アップピアエンジンはクラウドベースの案件管理に特化
- ・ ユアサポAIはMicrosoft Word環境との高い親和性が特徴



## プライベート特許検索®と生成AIの統合

リーガルテックグループ Tokkyo.AI株式会社が提供

### 技術的特徴

- ChatGPT-4oの実装による高度な知財検索
- 独自の「Xシステム」でビッグデータを高速処理
- 企業の機密情報が外部に漏れないプロテクト機能
- AIイメージ商標検索など多彩な検索機能

### 主要機能

- AIチャット：特許情報の即時調査
- 生成AI：特許明細書の自動作成支援
- AI検索：入力文章から関連特許を瞬時検索
- 生成AI Plus：弁理士への出願相談用の発明提案書作成支援

### 導入事例・効果

- 特許事務所：調査・分析時間の大幅短縮、パテントマップ作成の効率化
- 電気機器メーカー：電動自動車開発プロジェクトでの活用
- 月額費用削減：数万円から7,000円へのコスト削減
- クライアントからの評価向上

### 料金体系

#### プライベート特許検索

初期費用：0円

利用料金：1 ID 月額20,000円

※価格は税抜き

### 評価ポイント

#### 強み

- ChatGPT-4oによる最新の生成AI機能
- プライベート環境による情報漏洩リスク対策
- 特許検索から文書作成までのワンストップ対応

#### 課題・弱み

- 海外特許対応の機能拡充が発展途上
- 具体的な成功事例の公開が限定的
- 生成AI機能のさらなる精度向上が課題



## 大学発技術による特許申請支援システム

株式会社AI Samurai（大阪大学・北陸先端科学技術大学院大学発）

### 技術的特徴

- ・ 特許庁の全データを独自のデータベースとして構築
- ・ 検索式なしで数十秒で全件調査を実現
- ・ 類似度の高い文献を基にクレームチャートを自動生成
- ・ GPTを活用した対話型の特許書類作成（AI Samurai ZERO）

### 主要機能

- ・ かんたん検索：特許情報の即時検索とIP Landscape表示
- ・ 詳細検索：日本/米国/中国特許の詳細情報取得
- ・ 審査シミュレーション：特許登録可能性をA～Dランクで評価
- ・ 特許文書作成支援：約3分で明細書ドラフトの自動生成

### 導入事例・効果

- ・ 特許/法律事務所での調査効率化
- ・ 三井住友海上火災保険との「知財保険」提供
- ・ MASSパートナーズ法律事務所との共同研究
- ・ 特許調査コストの最大40%削減（目標値）

### 料金体系

#### 「みんなの特許」

最低5万円（税別）から

#### 「AI Samurai ONE」

企業向け10アカウントで年間360万円から

※先行予約で20%割引（先着15社限定）

### 評価ポイント

#### 強み

- ・ 審査シミュレーション機能による特許性の事前評価
- ・ 対話型システム「AI Samurai ZERO」の独自アプローチ
- ・ 大学発の技術基盤による信頼性

#### 課題・弱み

- ・ 比較的高価格帯での提供
- ・ 導入事例の具体的な効果測定情報が少ない
- ・ 生成AI技術の法的・倫理的課題への対応

# アップリアエンジン – 詳細分析



## 特許明細書作成に特化したクラウドサービス

Smart-IP株式会社が提供するスマートドラフティングシステム

### 技術的特徴

- ChatGPT連携機能による明細書自動生成
- 特許明細書作成専用のUI設計
- Azure OpenAI Serviceの活用でデータ再学習リスクを回避
- ISMS認証（ISO27001）取得によるセキュリティ確保

### 主要機能

- ChatGPT連携：特許請求の範囲、発明の概要、詳細説明の自動生成
- 専用入力項目：明細書作成に必要な項目の整理
- ダッシュボード機能：案件の対応状況を一目で把握
- データ一元管理：明細書や案件情報を統合管理

### 導入事例・効果

- 特許事務所における明細書作成時間の削減
- 弁理士や特許事務所の実務に即した機能設計
- クラウドベースのサービスで場所を問わない作業環境
- 知財部門と特許事務所の連携効率化

### 料金体系

#### フリープラン

無料（月3件まで、閲覧制限あり）

#### プロプラン

1ユーザー月額25,000円（税抜き）

案件登録数無制限、閲覧制限なし

※初期費用なし

### 評価ポイント

#### 強み

- 特許明細書作成専用のUIによる使いやすさ
- ダッシュボードによる案件管理の視覚化
- ISO27001認証取得によるセキュリティの信頼性

#### 課題・弱み

- フリープランの機能制限による使い勝手
- 競合サービスとの差別化ポイントの明確化が必要
- 特許検索機能など周辺機能の拡充余地



## Microsoft Word統合型の特許文書作成支援ツール

株式会社ユアサポ／XTech Ventures株式会社が提供

### 技術的特徴

- ・ 事務所/企業の過去書類をAIが学習し「自分が書いたような」文章を生成
- ・ Microsoft Wordアドインとして機能するシームレスな統合
- ・ ローカルデータ保存によるセキュリティ確保
- ・ 生成される文書や入力データはユーザーのPC上にのみ保存

### 主要機能

- ・ AIによる自動文書生成：請求項、明細書を自動作成
- ・ Microsoft Word統合：使い慣れた環境での文書編集
- ・ 高精度アウトプット：独自技術による高品質文書生成
- ・ セキュアなデータ管理：AIへ送信されるデータはモデル学習に不使用

### 導入事例・効果

- ・ 「発明者のアイデアを明確に言語化できるようになった」
- ・ 「品質の均一化が実現し、社内での承認プロセスがスムーズに」
- ・ 国内複数の特許事務所で先行導入
- ・ 今後半年で弁理士事務所50カ所や大企業10社への提供目標

### 料金体系

#### 月額課金制

利用規模に応じて月額数万円から

※先着10社を対象に2週間の無料トライアル実施

※特許/弁理士事務所または企業知財部が対象

### 評価ポイント

#### 強み

- ・ Microsoft Word統合による学習コスト最小化
- ・ 事務所/企業固有の文体学習による独自性
- ・ ローカル保存によるセキュリティの高さ

#### 課題・弱み

- ・ 新規リリースによる実績の少なさ
- ・ 競合との機能比較情報の不足
- ・ 生成AI技術の継続的な精度向上が必要

# 対象顧客と最適活用シーン

各サービスの特性に応じた最適な導入対象と活用シーンを分析します。

## TOKKYO.AI

### 主要対象顧客

- ・ 特許事務所
- ・ 企業知財部
- ・ 研究開発部門

### 最適活用シーン

- ・ 特許検索と文書作成の統合的活用
- ・ クライアントへの提案力強化
- ・ 特許情報漏洩リスクの回避

## AI Samurai

### 主要対象顧客

- ・ 特許/法律事務所
- ・ 企業知財部
- ・ スタートアップ企業

### 最適活用シーン

- ・ 特許性評価や審査シミュレーション
- ・ 出願前の事前調査
- ・ 知財戦略の策定支援

## アップピアエンジン

### 主要対象顧客

- ・ 特許事務所
- ・ 弁理士
- ・ 企業知財部

### 最適活用シーン

- ・ 明細書作成業務の効率化
- ・ チーム内での案件管理
- ・ 特許文書のデータ蓄積とノウハウ共有

## ユアサポAI

### 主要対象顧客

- ・ 特許/弁理士事務所
- ・ 企業知財部
- ・ Microsoft Office環境での業務実施組織

### 最適活用シーン

- ・ Word環境を維持したい組織
- ・ 独自の文体・表現スタイル維持
- ・ 高いセキュリティが求められる環境

## 導入検討のポイント

- ・ 業務フローとの整合性を確認
- ・ 既存システムとの親和性を検討
- ・ 機密情報保護の仕組みを確認
- ・ カスタマイズ性・拡張性を評価
- ・ 初期コストだけでなく運用コストも考慮
- ・ 無料トライアルで実際の使用感を確認



# 市場動向と将来展望

## 市場規模と成長予測

- 日本のAIシステム市場：2023年に6,858億円（前年比34.5%増）
- 2028年には2兆5,433億円まで拡大すると予測
- 生成AI市場：年平均53.3%の成長率で拡大中
- 2030年には約2110億ドル（約32兆円）規模へ
- 特許関連のAIサービス市場も比例して拡大の見込み

## 技術進化の方向性

- 生成AIの性能向上による高品質文書生成
- 法的有効性の高い文書自動作成の実現
- 複雑な技術分野の正確な理解・表現
- 多言語対応の高度化
- 業界・技術分野特化型の専門AIモデルの発展

## サービスの多様化

- 特許戦略策定支援AIの登場
- 無効資料調査・侵害リスク分析への拡充
- 既存業務システムとの統合の進展
- 知財管理～特許出願～権利化の一貫支援
- 業界・企業特化型カスタマイズの広がり

## 課題と対応

- AI生成文書の法的責任の明確化
- 著作権・法制度の整備
- 生成AIによる特許文書の品質保証体制
- 専門家とAIの効果的な役割分担
- データセキュリティ・機密情報保護の強化

## 今後の競争環境の変化

### 市場再編の可能性

- AIモデルの性能差が競争優位性に直結
- 大手クラウドサービスの市場参入加速
- 専門特化型サービスと総合型サービスの二極化

### 持続的競争力の源泉

- 特許専門知識とAI技術の融合力
- 使いやすいUI/UXの実現
- ハイブリッドアプローチ（AI+人間専門家）

# 総括と導入検討のための提言

## 各サービスの適合性評価

### TOKKYO.AI

特許検索と文書作成を統合的に行いたい組織、特に情報漏洩リスクに敏感な企業に適している。

### AI Samurai

特許性評価や審査シミュレーションを重視する組織、戦略的な知財管理を目指す企業に最適。

### アッピアエンジン

特許明細書作成に特化したい弁理士や特許事務所、案件管理を重視する組織に向いている。

### ユアサポAI

既存のWord環境を維持したまま生成AIの恩恵を受けたい組織、独自の文体を維持したい事務所に最適。

## 導入検討時のチェックポイント

- **業務フローとの整合性**：既存の業務フローと親和性の高いシステムを選定する
- **セキュリティ対策**：機密情報保護のためのセキュリティ対策が十分か確認
- **カスタマイズ性**：自社/自事務所の特性に合わせたカスタマイズが可能か
- **拡張性**：将来的な機能拡張や他システムとの連携可能性
- **費用対効果**：導入/運用/学習コストを含めた総合的な評価
- **無料トライアル**：実際の使用感や業務適合性を試用期間で確認

## 導入・運用の留意点

- AI生成文書の品質チェック体制の構築
- 専門家によるレビュープロセスの確立
- ユーザートレーニングの実施
- AIと人間の適切な役割分担の設計
- 運用評価指標の設定と定期的な効果測定
- 知財戦略との整合性の確保

## 将来に向けた提言

- 段階的な導入計画の策定
- 特許業務全体のDX化構想の中での位置づけ
- AI活用による人的リソースの再配分計画
- 知財情報の戦略的活用方法の検討
- 技術進化を見据えた柔軟な対応体制
- 法的・倫理的課題への対応準備

## 結論

特許文書作成支援AIサービスは、知財業務の大幅な効率化と質の向上をもたらす可能性を秘めています。各サービスはそれぞれ異なる強みと特徴を持っており、自組織の業務特性や課題に最も適したサービスを選定することが重要です。

また、AI技術の急速な進化を考慮し、柔軟な対応が可能なシステム選定と継続的な評価が必要となるでしょう。最終的には、AIを活用しつつも人間の専門家の判断を効果的に組み合わせるハイ

